第 36 回 安田女子大学・安田女子短期大学 エッセイコンクール

課題部門 テーマ：親になること
優良賞「親になること、大人になること」
文学部 日本文学科 2 年 2 組 西坂風花

　夏休み前、友達から一本の電話が入った。
「来年結婚するから、結婚式の友人代表スピーチよろしくね！」
と唐突に言った彼女は、それと同時に、面食らっている私に親になることを告げた。
　同級生が結婚すること、親になること。二重の驚きでしばらく言葉が出なかった。そういえば、もう結婚できるんだっけ、のんきな考えが浮かんで消えた。どこか遠く感じていた「親になること」というテーマが、急に身近に感じられた。

　唐突だが、「親」と「大人」は、似ていると思う。
　「親」と「大人」は、どちらも「子ども」の対極にある言葉だ。また、どちらも、あるきっかけによって受容的になるものだと思う。私たちは、子どもを持ったり、決められた年齢に達したりすることで、ある時から自然に「親」や「大人」として生きていくことを余儀なくされる。
　今年から成人年齢が引き下げられ、18 歳から大人の仲間入りを果たすことになった。私も大人になった、はずなのに、いまだに実感がわいていない。今日から大人だと言われ、すぐに実感がわく人の方が少ないだろう。お酒を飲んだり、社会人になったり、大人のイベントをこなしていくことで、段々と実感がわいてくるのではないだろうか。
　親も、そういうものなのかもしれない。親になるには、子どもという目に見える存在が必要なため、大人になることと比べると実感がわきやすくはあるだろう。しかし、子育てをしていく中で親になったことを実感していく人も多いと思う。
　親になることと、大人になること。両者は似ているようで、大きな違いがある。大人になるとさまざまな責任を負うことになるが、親としての責任は、大人のそれとは比べ物にならないくらい重大である。大人というのは、自分の行動に責任を持たなければならない。しかし親は、子どもが成人するまでは、子どもの行動に対しても責任を持たなければならないのだ。
　子育てというのは、とても大変なものである。
　仕事は頑張った分報酬がもらえるが、子育てはお金がかかる上に、見返りを求めることなく行わなければならない。また、育児だけでなく家事や仕事もこなす必要がある。精神的、体力的にもきつく、育児ノイローゼになってしまう人もいる。MMD 研究所が行ったアンケートによると、主婦の二人に一人が育児ノイローゼの経験があるという。
　その大変さゆえか、子育てを投げ出してしまう人も少なくない。身体的虐待、心理的虐

待、性的虐待、ネグレクト——夕方のニュースで、児童虐待についての事件を目にすることも珍しくはない。目を覆いたくなるような悲しい事件が、たびたび起こっている。
　親は子どもを導く存在であり、子どもは親の背中を見て育つ。しかし、親というのは、必ずしも子どもにとって良い存在というわけではない。「毒親」と呼ばれるように、子どもにとって毒になる親もいる。
　大人になった実感も、親になった実感もなくていいと私は思う。ただ、大人としての自覚、親になった自覚だけは持たなくてはいけない。実感がわかなくとも、その役割としての責務は必ず果たさなければならない。
　大人は必ず親にならなければいけないわけではない。大人は、生きていれば誰しもが必ずなるものだが、親はそうではない。親になるもならないも個人の自由であって、他人にとやかく言われる筋合いはない。
　しかし、親は必ず大人でなければいけないと思う。
　この「大人」というのは年齢的な意味ではない。成人年齢の引き下げに伴い、結婚できる年齢も男女ともに十八歳になった。それまでは、女子は十六歳で結婚することができたため、若くして親になった人たちもいた。問題なのは、年齢ではなく、精神的に大人かどうかである。精神的に未熟で、自分が大人だという自覚を持てない人は、子どもを育てることは難しいと思う。自分の責任を果たせない人が、他人の人生に責任を負うことはできない。精神的に自立できていない、いつまでも大人になった自覚が持てないというのは、毒親になり得る原因の一つだと思う。
　親は子どもを、大人になるまで導かなければならない。勉強、考え方、人との向き合い方——子どもの人生は、親に大きく左右される。子供が大人になるまでの過程には、たくさんの苦労がある。人を育てるということの大変さを、大人はみんな理解しているはずだ。
　「親ガチャ」という言葉があるように、生まれてくる子どもは親を選べない。しかし、親は自分が親になるかどうか、自分の意思で決めることができる。大人になることと親になることでは、わけが違うのだ。親になる前に、一度、立ち止まってみてほしい。あなたの心に、人生に、自分以外のスペースを持てる余裕はあるのか？

　大人としての自覚と親になる覚悟を持っている人が、子どもの人生を背負い、大人になるまで導くこと。それが親になることだと私は考える。